

お薬のしおり

頓服薬って何？ No.71 (H19.8)

東京医科大学病院 薬剤部

「頓服」と聞いて、皆さんは何を想像しますか？頓服とは薬の飲み方についての用語です。国語事典の大辞林には『①医薬品の一分包を一回に全部服用すること、②「頓服薬」の略』と記されています。

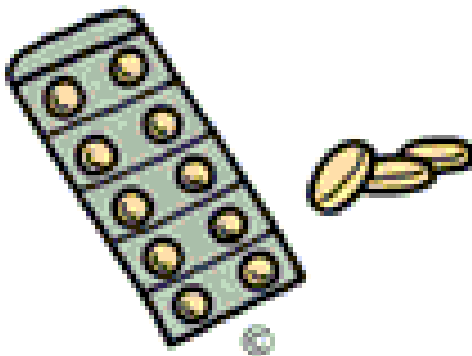
お薬の飲み方として多いのは、「食後 30 分」や「寝る前」のように服薬時間帯を決めて、規則正しくお薬を飲むことで病気等の症状を抑える、という飲み方です。これらは、医師があらかじめ服薬方法（時間）を決めて、患者さんにそれを守ってもらう飲み方です。

一方、「頓服」とは、症状が出た時、または出そうな時にお薬を飲むことを指します。頓服薬として使用されることが多いお薬には「解熱剤」、「痛み止め」、「吐き気止め」、「発作治療薬」などがあります。坐薬などのいわゆる外用剤では「頓用」という表現を用いたりもします。

この頓服（頓用）で服用する場合に気をつけなければいけないことは、患者さん自身が症状に応じてお薬を飲むということです。

お薬は、正しい用量を飲むことで効果を発揮しますし、過剰に飲み過ぎると副作用があらわれる場合もあります。そこで問題となるのが、頓服（頓用）薬は一日に何回まで飲めばいいのか、次に飲むまでにどのくらい時間をあけなければならない

か、ということです。一般に、解熱剤、ケガなどの痛み止め、吐き気止めなどは一日に 2~3 回まで、次回までに 6~8 時間の間隔を空けることが多いようです。もちろん、患者さんの症状、状態、お薬により服用する回数や間隔は変わってきます。



頓服薬はあくまで、とりあえずの症状を抑えるという対症療法であり、病気等の根本的な治療ではありません。解熱剤に関して言えば、解熱剤を使用したにも関わらず熱が下がらない時、往々にしてカラダの水分が不足していることがあります。水分を補給する事で、再度お薬を服用しなくても熱が下がる場合もあります。

狭心症や喘息などの発作の時に用いる頓服（頓用）薬は、痛み止めなどと違い特殊な使い方をするものが多いです。あらかじめ使い方を十分に確認しておくことが大切です。また、発作時に用いる頓服（頓用）薬は患者さん自身だけでなく、まわりの家族の方なども使い方を理解していると、いざという時に心強いです。



また、以前病気になった時にももらった薬が残っていて、同じような症状が出たからといって、使用することはやめましょう。同じような症状でも、以前と違う病気ということはよくあります。もしも違う病気の場合、以前に処方された頓服薬を使用することで一時的に症状は緩和するかもしれませんが、結果的に治療の遅延や悪化を招くこともあります。

いろいろなお薬の飲み方のなかで、「頓服（頓用）」という飲み方は、患者さんの判断により用法・用量が変わってきます。頓服（頓用）薬を効果的に使うことが、つらい症状を緩和して普通の日常生活をおくる手助けとなります。

お薬を受け取られる際に、ご不明な点などがありましたら、何でも医師・薬剤師に確認するようにしましょう。